

あきる野民報

発行責任者/松平重幸 TEL&FAX 558-0718

住民の利益をまもり、
「住民こそ主人公」の
あきる野市政実現をめざして！

2007.9.23 No.471 (毎月2回発行)

日本共産党あきる野市委員会は次の見解を発表しました。

思いは同じ「市政を変えるチャンスです」

こんとん
**情勢は混沌
最後に
競りかっ
たものが
勝利する！**

あきる野市の市長選挙と市議補欠選挙は、いよいよ残すところあと2週間と迫って来ました。

しがらみ市政をすすめてきた保守陣営は四分五裂。その中から立候補して来たのが借金財政の大本をつくって転出した現職都議。一方、市民うけをねらったポーズを取りながら、最後はことごとくオール与党のしがらみ市政に積極的に賛成して来た現職市議がまたまた市議の職を投げ出して立候補。この人物が「都議の職を投げ出すのは無責任だ」というピラを出しているから面白い。

市議選は、靖国派の自民党国会議員秘書と前回市議選で建築法違反などの違法行為を暴露されて落選した人物が風を頼んで民主党の推薦を取り付けて登場。

これに対して、この数年間の市民運動の中から生まれた「しがらみ ムダづかいなくし隊 あきる野」から市長選に立候補した水谷まさき氏。「なんとしても議会で日本共産党の議席を4議席に」と決意した広木てる子氏を先頭に、この「絶好のチャンス」を逃さないよう残る2週間、全力を挙げて奮闘しましょう。

ふつうの主婦の目線で 市民の声を議会に届けたい

毎年のように上がる国民健康保険税、住民税などの度重なる負担増。
その一方で市は、二十四億二千万円を使って温泉建設を市民の疑問の声を無視してすすめています。
学童・市民の災害時の避難所でもある学校・体育館の耐震化は近隣の市に比べて大変な遅れで、目に余るものがあります。
この間、議会傍聴を重ねて来て、日本共産党以外は、オール与党の



いまの市政をなんとかしたい！

広木てる子さん

あきる野市議会議員補欠選挙
日本共産党予定候補

議会の中で、市民の願い実現のため議会内外で頑張る日本共産党議員の姿を見てきた私は、もっと市民の声を市政に届けるには、「議席を増やすことが大切」と思い、立候補を決意しました。
「くらしを良くしてほしい」の市民の思いをしっかりと背に受けて、主婦の目線で議会でものを言い、頑張ります。(広木)

広木てる子さんのプロフィール

- 1938年東京・中野区生まれ。●都立西高校卒。●雪印乳業本社、立川相互病院などに勤務。●民主青年同盟都委員、三多摩健康友の会支部役員などを歴任。●現在党地区委員。●趣味は、読書、旅行、スポーツ観戦。●家族、夫と1男。

税金の「ムダづかい」を くらしの「心づかい」に！

重視したい「相談行政」
いまの市政は、情報提供が乏しく知らない間に税金が使われ、市民の声はほとんど届いていません。身近なくらしに目を向け情報や意見を交換する「市民フォーラム」などの機会を設け、十分に相談してみんなが納得できる市政にすべきです。
ムダづかいをくらしの心づかいに
財源の乏しいいま、過去のム



若さごとく行動力で真の改革を約束

水谷まさきさん

あきる野市長予定候補
「しがらみムダづかいなくし隊あきる野代表

「しがらみ」でものが言えない現実の打開が必要です。長期の財政計画も人口増加による増収など確実に健全化をはかっていく必要があります。
中立公正な行政事務
強制力のある意志決定をする市長は、中立、公正、公平な経営者、法律実務者、監査人であるべきです。

「しがらみ」ではなく福祉に向けてのべきです。そのために「しがらみ」でものが言えない現実の打開が必要です。長期の財政計画も人口増加による増収など確実に健全化をはかっていく必要があります。
市政へのチャレンジ
幼い時から地元で育ち、これまで身につけて来た知識、能力を市政に生かすチャンスであると考える、使命感のもとに立候補を決意致しました。
市政には、政党の争いや保守

革新という単純な区分けは無益です。私は、明確な根拠にもとづく行動と専門的な知識をもって、私心なく若さごとく行動力で真の改革を約束する本物の無党派、無所属です。市長選挙は「しがらみ」にとらわれず、個々人が「人」と「政策」で、ご判断頂くべきだと思います。(水谷)

野良望

「しがらみ」という言葉を探して辞書で引いてみた。緒方出版の「早引き国語辞典」によると「柵(しがらみ) 邪魔になるものと、あるまじきにそのものズバリの言葉だ。▼「温泉問題」の事務監査請求の署名に訪れた時に何度となく遭遇した「署名したいけど自治会のえらい人がうるさいから」署名には応じてくれたが「隣には見せないでほしい」など、五日市の山の方にいけば行くほど多かった。こんな言いたいことも言えない柵がある野の土地にはまだ多く存在する。▼古くから続く保守政治の柵は、共産党以外のオール与党の柵で箱もの行政が多数決で決められ、すすめられて来た。結果が、市民一人当り一〇〇万円にもなる借金財政だ。この柵を解き放つ市民の勇氣ある判断で二人の勝利をもたらしたいものだ。▼水谷市政と四人の共産党議員団が実現した暁には……。いやいや、それでも議会内は少数与党、柵軍団に負けてはならないぞ。柵との闘いは続く。新市長と市民の共同で。(紀)

市長選挙の話題でもちきりの9月議会

一般質問は12名だけ!

《山根議員レポート》



前回の民報でもお知らせしました。議会の中で、

10月に行われる市長選挙の話題でもちきりという状況の中で、一般質問者も12名だけという議会となっています。

**児童館整備費
循環バス等
検討委員会
設置等の予算が**

日本共産党市議団の一般質問で、来年4月から創設される「後期高齢者医療制度」は、わずかな年金からも高い保険料が引かれてしまうなど多くの問題点が明らかになりました。

**五日市憲法シンポジウム
開催を提案!**

また、五日市憲法草案が中央図書館に保管されることになり、憲法問題が盛んに議論される中で、貴重な文化遺産である五日市憲法草案を内外にアピールするため、五日市憲法シンポジウムを開催するよう提案しました。

9月補正予算では、五日市学童クラブの指導員の増員、屋城児童館の集客室などの修繕費、若草児童館の整備事業経費など一部予算がつけました。また循環バス等検討委員会を本年中に設置する予算がつけました。決算審議など含めて詳しくは、順次、市議団ニュースでお知らせしていきます。

一面で紹介した水谷まさきさんは、携帯サイトで「困りごとなんでも相談」を開発。5年でアクセス9万件。相談解決2千件の実績があります。下記の予定の街頭大相談会を開催します。誘い合って参加下さい。

税理士・行政書士など20以上の資格を持つ 水谷まさきさんが

9月24日 午後2時～5時まで 大相談会開催



こどもごらし

こどもの頃を過ごした場所を、妹と数年ぶりに散策しました。トトロの世界のようなこども時代を過ごした場所です。

家のあったところは空き地、近くにはアパートが建ち、道も大きく変わっていましたが、入り込むと当時の名残があちこちに。同時に、あたらしくこどもたちが遊び場にしているらしい痕跡も。

変わったところは多く、わたしたちがいまそこに暮らしていないという事実もせつないけれど、現在のこどもたちがそこで思い出を積み重ねているという当たり前のことに、なんだかなくさめられるような思いがしました。

世界中のこどもたちがたくさんの幸せな思い出を作りながら成長しますように。

たばた あずみ 連絡先は☎550-6674

朝夕はだいぶひんやりとして
真夏とは違ってきたと思ひながら、
ちよっと寝坊した分、
「赤旗」配達に自転車飛ばす。
配達を終えて、ちよっと回り道をしたら、
太陽自身が朝焼けのように
真っ赤に燃えながら
のぼって行くのに出会う。
秋風に負けないぞと、我を張っているようだ

山柳 二題 西川 昇(引田在住)

坊ちゃんの 政權なげだし 殿(いらい)
キホーテの 見果てぬ夢は 續(ついで)えたり

歴史探訪 第51回 地名考・草花 ④



草花・都道秋多3・4・6号線

草花村の起源はいつ頃なのでしょう。山根議員の自宅近くに慈勝寺がありますが、寺の「由来記」には一三〇〇年頃に慈勝寺の山号である草花山から村名をとり、草花村としたと記されています。草花山は草花が咲き乱れていたという伝説がありますが、今では信憑性が薄いとされています。

草花村は多摩川と平井川、そして草花丘陵に囲まれた地域です。一六〇〇年頃の古文書では戸数二三八軒とありますので、当時としてはかなり大きな村であったと思います。一六九〇年頃に上草花村・下草花村の二村に分村しますが、幕末には上下両村で二〇八軒・人口一〇二九人と増えてきています。分村した草花村は、明治元年廃藩置県で再び合併し草花村となります。一九二二年(大正十年)に草花・瀬戸岡・菅生・原小宮の四ヶ村が合併し多西村となつて、草花村は大字草花に変わります。

子供の頃青梅に住んでいた私は、数名の友人と尾崎観音(日の出町)の獅子舞を観にいった記憶があります。五十年前ですから確かな記憶ではありませんが、福生駅から多摩川の木造の橋を渡り、豊坂を登り尾崎まで歩きました。一面の雑林と畑であった草花も、今では戸数三千・人口一万余を越す住宅地となり更に増え続けています。(草花の項・終) 草花 木崎秀治



コロシア手に片手自転車日焼の子
風に乗り子等の散声ブルより(聴代)
つづく日の極暑しすめし昨夜の雨(やす子)
図書館へ本借りに行く残暑かな(ルリ子)
(勝代)

雲上に露天湯ありて避暑地かな
秋暑し妻と大杯酌み交はす(静子)
てて虫や喧嘩に勝ちし児もほいて(忠治)
葡萄囀む孫のほっぺに爺の手(淑子)
月まつる赤きお膳を買いに行く(富子)
月の坊僧に注がるる般若湯(かほる)
(秀治)